

STRDESIGN V15.3 レベルアップ項目について

【入力】

| No | 項目 | 詳細 |
|----|--------|---|
| 1 | 通り表示対応 | 入力した「番付」及び「通り芯」の通りを立面表示できる機能を追加しました。 |
| 2 | 根太検討条件 | 根太検討条件内で、樹種とWHが直接指定できるようになりました。 |
| 3 | 柱 | ① 柱のZ座標がプロパティで直接指定できるようになりました。 ② 柱の座屈長さが直接指定できるようになりました。 |
| 4 | 床束 | 混構造物件での床束が入力できるようになりました。 ※入力により大引の計算スパンが設定できるようになります。 |

【計算】

| No | 項目 | 詳細 |
|----|------------|--|
| 1 | 柱の小径・有効細長比 | 柱の小径・有効細長比の計算ができるようになりました。 ウィザードで計算有無・出力有無の指定ができます。 注) 許容応力度は計算対象外となります。 |
| 2 | 陸屋根対応 | 陸屋根(勾配=0)の計算方法を変更しました。 勾配0の場合は、流れ方向を参照せず屋根領域を亀甲分割し荷重の伝達を行います。 |

【出力】

| No | 項目 | 詳細 |
|----|-------------|--|
| 1 | タイムスタンプ表示切替 | 計算書右上に出力されるタイムスタンプ(計算書番号)の出力有無が設定できるようになりました。出力有無はウィザードで設定します。 |
| 2 | 荷重伝達図(A3) | 荷重伝達図のA3出力(横)に対応しました。 |
| 3 | 図面伏図(梁表示) | 梁の表記方法を増やしました。 ※V15.2 から一番多く使用されているWHを凡例に記載し、図面上記載しない仕様となりましたが、V15.1 同様「全出力」の出力タイプを追加 |
| 4 | 基礎の検討 | 基礎タイプの表示位置を変更し、長い基礎タイプの表示に対応しました。 斜めの基礎の位置表記に対応しました。 凡例及び設定パラメータ(端部の支持状態)の表記を追加しました。 |

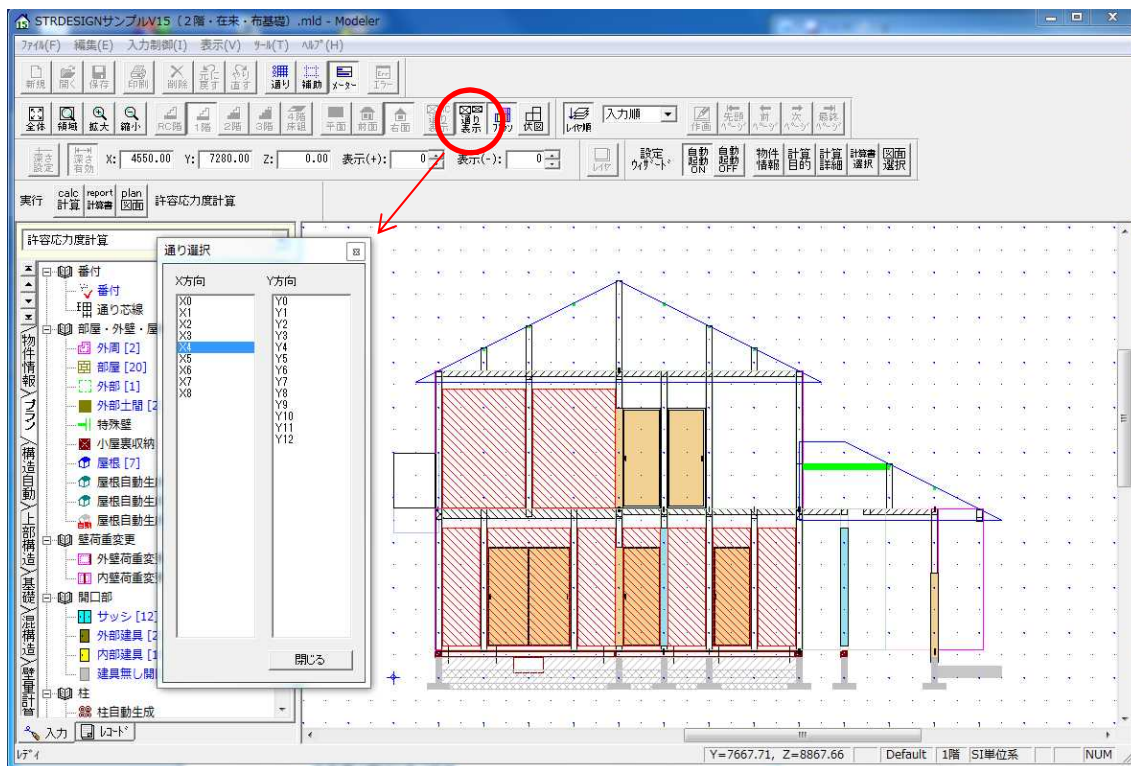
【その他】

| No | 項目 | 詳細 |
|----|------------|--|
| 1 | 鉄筋強度(マスター) | せん断補強(長期)を195に変更しました。 V15.2 までは200が設定されていました。 |

【入力】 1. 通り表示対応

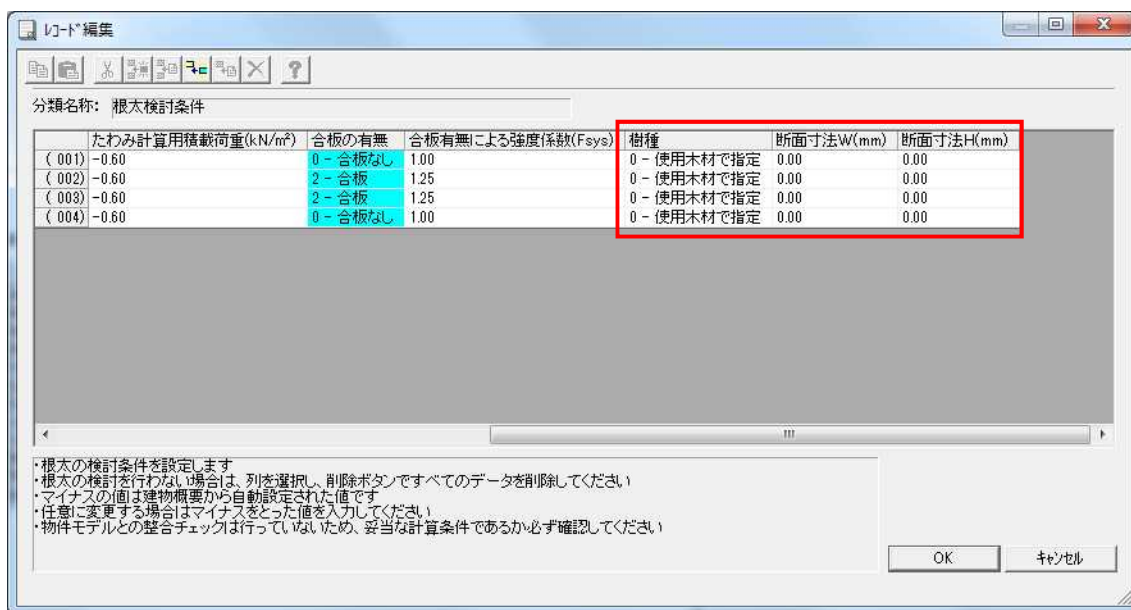
入力した「番付」及び「通り芯」の通りを立面表示できる機能を追加しました。

※「番付」と「通り芯」の両方入力されている場合は「通り芯」を優先します。



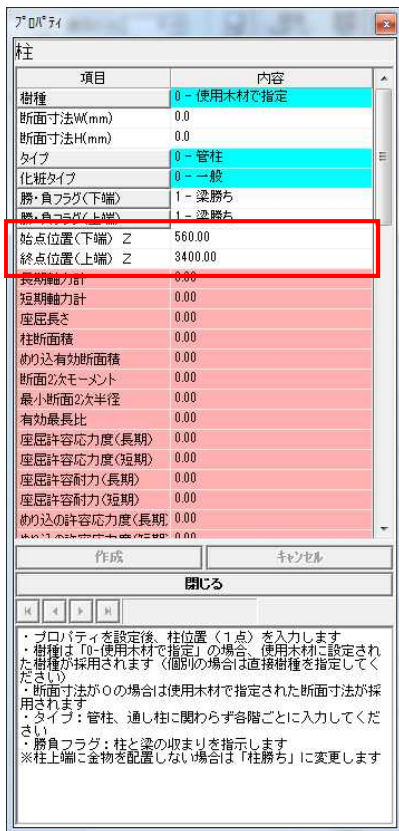
【入力】 2. 根太検討条件

根太検討条件内で、樹種とWHが直接指定できるようになりました。



【入力】 3. 柱

- ① 柱のZ座標がプロパティで直接指定できるようになりました。
デフォルトは建物概要で設定した土台天端や軒高になります。
入力前に変更して入力したり、入力後に変更したりすることができます。
- ② 柱の座屈長さが直接指定できるようになりました。
柱の設計での座屈長さや、柱の小径・有効細長比の算定に有効です。
設定がない場合は、「柱高さ（軒高間高さ）－ 想定梁せい（構造計算パラメータ）」
で算定されます。

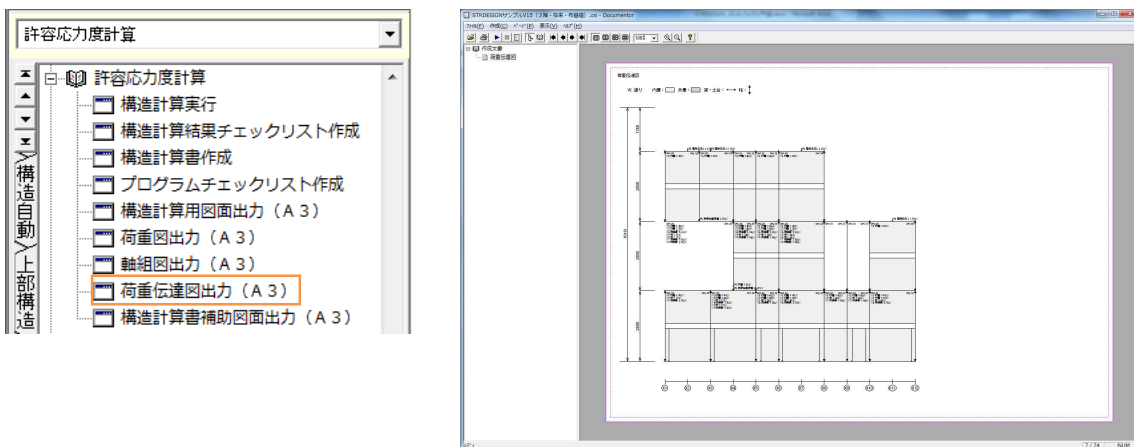


【入力】 4. 床束

- 混構造物件での床束が入力できるようになりました。
※入力により大引の計算スパンが設定できるようになります。

【出力】2. 荷重伝達図出力 (A3) ※許容応力度計算時のみ

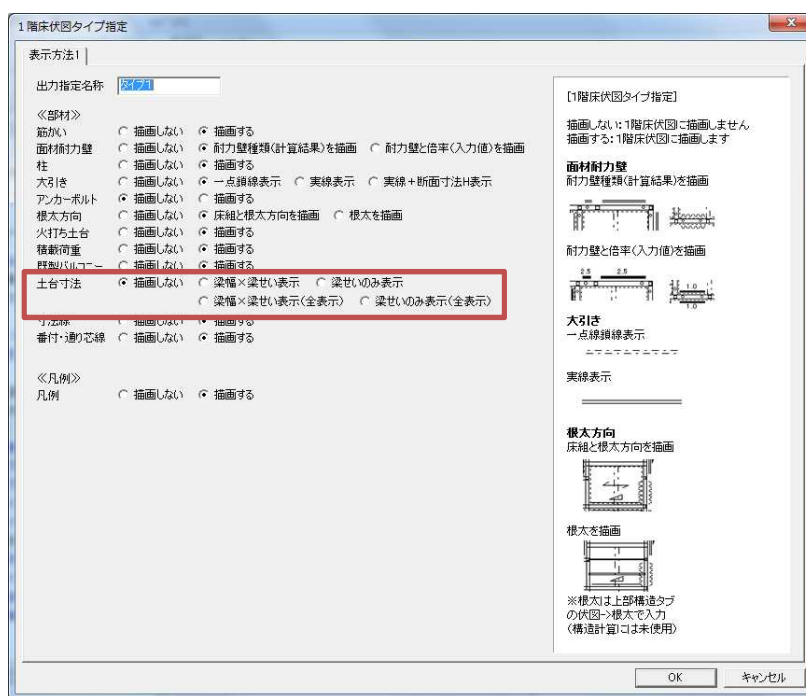
参考図として計算書の後ろに出力していた荷重伝達図のA3出力(横)に対応しました。



【出力】3. 図面伏図 (土台・梁表示)

V15.2 で基本の梁の樹種・梁幅×梁せい (or 梁せいのみ) は凡例に記載しそれ以外のみ図面に表示するようにしましたが、V15.1 までの全表示モードも選択できるようになりました。

※1階床伏図：土台、2～3階床伏図、小屋伏図：梁



【出力】4. 基礎の検討

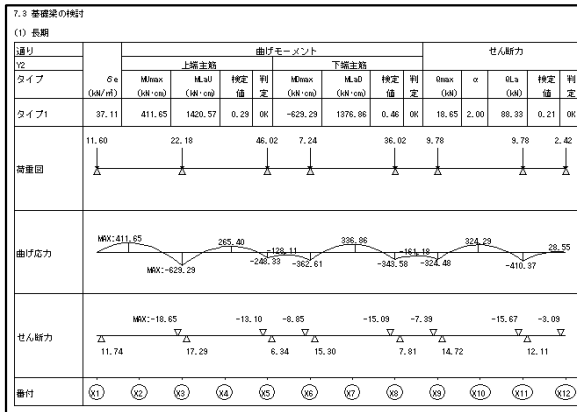
基礎タイプの表示位置を変更し、長い基礎タイプの表示に対応しました。

斜めの基礎の位置表記に対応しました。

凡例及び設定パラメータ（端部の支持状態）の表記を追加しました。

■V15.2 までの計算書

■V15.3 の計算書



斜めの場合は、通りを
X1Y1~X2Y2のように記載します。

【その他】鉄筋強度（マスター）

せん断補強（長期）を 195 に変更しました。（V15.2 までは 200 を設定していました。）

